

授業概要

東アジア社会の歴史的過程に大きな影響を与えた中国について、ジェンダー史の観点を織り交ぜた通史的概観を行う。現在、中国の国際的存在感は大きなものになっているが、そのありようは伝統的に培われた価値観に拠っており、歴史による理解が必須のものとなっている。昨年度講義では史学史の観点による「歴史編纂」の伝統を主な対象としたが、その「歴史」は主に男性を描いたものであり、ともすれば女性はその記載から抜け落ちてきた。女性・男性のありようを見据えた概観を行うことで、「歴史」と実際の人々の生活・社会との接点を修復すると共に、現在に連なる伝統の影響とその結果について、考える機会を作りたい。

授業計画

第 1 回	イントロダクション：ジェンダー（男性/女性）と中国の歴史
第 2 回	文明の始まりから周まで — 生活、家族、集落、古代王権
第 3 回	春秋戦国から秦・前漢まで — 古代国家と皇帝、儀礼と文学
第 4 回	後漢 — 「儒」の世界と宦官
第 5 回	三国から魏晋南北朝 — 危機の時代と「強い女性」
第 6 回	隋・唐 — 武則天という「画期」
第 7 回	宋 — 男性と女性の静かな衝突
第 8 回	補足回①：中世までの日本のジェンダー — 文化交流史の視点から
第 9 回	遼・金・西夏/南宋から元、明（初期） — 「民族の時代」は人々に性別規範を強めた
第 10 回	明後期 — 大衆文化、サブカルチャー、「才子」と「烈女」
第 11 回	清前期 — 「才女」たちの芽吹きと規範強化、文化統治と「道徳」
第 12 回	補足回②：「中国幻想」とジェンダー — 日本が中国に夢見てしまったのは？
第 13 回	清後期 — 「西洋の衝撃」のもたらした「近代」の「男性」/「女性」
第 14 回	民国期 — 「国家」は人々に規範を要求する
第 15 回	人民共和国、そして現代へ — 「男女平等」の建前と本音
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・中国の歴史を基礎的に理解し、自分自身との文化的関係に気づく。
- ・「ジェンダー」の歴史的成り立ちを知り、「歴史」が自分自身にとってどのような意味を持つかを考える。
- ・物事を「歴史的に考える」視座を得る。

履修上の注意

- ・特にありませんが、高校にて「世界史」・「日本史」を履修しなかった方、中国史の初心者も歓迎します。
- ・科目名は「東洋史」ですが、日本の視点も含まれますので、日本史に関心のある方の受講も歓迎します。

予習・復習

- ・毎回の講義にて配布するレジュメを読み返すこと。
- ・講義にて提示される参考文献のうち、興味関心のあるものに目を通すこと。

評価方法

- ・平常点（毎回配布のリアクションペーパー20%）、小レポート（20%、文献の要約と感想）、試験（60%）。小レポートは第八回ごろに課題を提示し、授業期間中の提出とします。
- ・なお、テストの問題を小レポートの内容とリンクさせる予定です。

テキスト

- ・教科書は無し（毎回、レジュメを配布します）。
- ・中心となる参考文献は、小浜正子ほか編『中国ジェンダー史研究入門』（京都大学学術出版会、2018）。
- ・中国史初学者には、参考文献として山本英史『現代中国の履歴書』（慶応義塾大学出版会、2003）。
- ・その他、参考文献を各回の授業にて提示します。